

■ ■ 授業科目名	■ ■ 科目区分	■ ■ 時間割	■ ■ 対象年次及び学科
知プラe科目 四国の歴史と文化 その1 歴史編 History and Culture of Shikoku area first period	主題科目	1Q 集中	1～ 全学共通科目
■ ■ 講義題目	■ ■ 水準・分野	■ ■ DP・提供部局	■ ■ 対象学生・ 特定プログラムとの対応
四国の歴史と文化 その1(歴史編)/History and Culture of Shikoku area first period(History)	B2THM	ecbG	1N
■ ■ 担当教員	■ ■ 授業形態	■ ■ 単位数	■ ■ 時間割コード
守田 逸人, 林 敏浩, 藤本 憲市[MORITA Hayato, Hayashi Toshihiro, Kenichi FUJIMOTO]	Le	1	000704
■ ■ 登録状況	■ ■	■ ■	■ ■

#### ■ ■ 講義題目 (必須)

講義題目(科目名の副題)を設定している場合には記入してください(全学共通科目は必須)。特に、全学共通科目では、その科目を専門としない学生も多数履修することが考えられます。様々な学生を想定し、授業の内容を想像できるようなわかりやすい題目にしましょう。

四国の歴史と文化 その1(歴史編)/History and Culture of Shikoku area first period(History)

#### ■ ■ DP・提供部局 (必須)

その授業が重要な役割を果たすと考えられる、DPの構成要素を示すアルファベット(小文字3ケタ)を重要なものから順に左から3つまで記入します(少なくとも1ケタ目は、各部局の教務委員会等で決定したもの)。全学共通教育科目については、DPの構成要素に対応する共通教育スタンダードを同様に記入します。該当するDPが2つ以下の場合には、残った部分にx(小文字)を入れます。

##### 【学士課程のDP／共通教育スタンダード】

- a: 言語運用能力／課題解決のための汎用的スキル
- b: 知識・理解／広範な人文・社会・自然に関する知識
- c: 問題解決・課題探求能力／21世紀社会の諸課題に対する探求能力
- d: 倫理観・社会的責任／市民としての責任感と倫理観
- e: 地域理解／地域に関する関心と理解力
- f: 教職に対する使命感(教育学部のみ)

次に、以下の提供部局(大文字アルファベット1ケタ)をDPIに続けて記入します。

##### 【提供部局】

- G: 大学教育基盤センター
- L: 教育学部・教育学研究科
- J: 法学部・法学研究科
- E: 経済学部・経済学研究科
- M: 医学部・医学系研究科
- T: 創造工学部／工学部・工学研究科
- A: 農学部・農学研究科
- S: 地域マネジメント研究科
- C: 創発科学研究科

ecbG

#### ■ ■ 授業形態 (必須)

その授業科目をどのような方法で実施するかを、以下の項目から大文字アルファベット1ケタと小文字アルファベット1ケタを組み合わせで記入します。どのような授業か学生がイメージしやすいよう、その科目の主な授業スタイルを選択します。

- L: 講義 g: グループワーク
- E: 演習 p: PBL
- P: 実験・実習 f: フィールドワーク
- M: 講義+実験・実習(医学科及び医学系研究科のみ) e: eラーニング

b: ブレンディッドラーニング(反転学習等)  
x: 該当なし

Le

#### ■ ■ 関連授業科目

関連する授業科目を記入してください(科目名のみ記入してください)。

四国の歴史と文化 その2 文化編

#### ■ ■ 履修推奨科目

履修推奨科目を記入してください(科目名のみ記入してください)。

四国の歴史と文化 その2 文化編

#### ■ ■ 学習時間(必須)

授業時間と回数、並びに自学自習が必要である旨を記入してください。

1単位の授業科目は、自学自習を含めた一定時間の学修を必要とする内容をもって構成するものですから、自学自習に関する適切な指示が必要で

す。特に自学自習については、準備学習と事後学習を合わせて、1単位の講義及び演習であれば30時間程度、また、1単位の実験、実習及び実技であれば15時間程度を目安として明記してください。

(記入例) 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)

授業(e-Learning) 90分 × 8回 + 自学自習

#### ■ ■ 授業の概要(必須)

授業の趣旨を記入します。授業を行う教員を主語として、どのような授業を行うのか、わかりやすい文で具体的に書きましょう。

履修前の学生にもわかるよう、専門用語は多用しないようにしましょう。また、必要であれば、他の授業科目との関連を書くことも有効です。

【キーワード】 四国、瀬戸内海、香川県、歴史  
四国の歴史・文化について講義する。各回では、四国で活躍した人々の事績や、都と四国との結びつき、四国に残された遺跡・史跡など、四国の歴史に関わるテーマを取り上げる。

#### ■ ■ 授業の目的(必須)

授業の存在意義を記入します。この授業がなぜ必要かが明確となるよう記入しましょう。また、学科・コース等のカリキュラムの中での位置づけが明確になるよう記入しましょう。

教員または学生が主語となりえる文章では、学生が主語となる文章にしましょう。この場合、授業で学習した結果、何ができるようになるかを表す動詞を含む文章で書きましょう。

四国の各大学に在籍する自分が暮らす地域の歴史について知識を得ることができる。また、現代的課題でもある四国地域と京阪神地域との結びつきなどについて、理解を深めることもできる。  
本授業での学習を通じて、香川を含む四国地域に関する知識や関心・意欲を高めるとともに、四国の歴史と文化に関する研究の背景や現状について説明できるようになることが目的である。

#### ■ ■ 到達目標(必須)

授業を履修後に最低限身につけるべき資質を箇条書きで記入してください。学生を主語として、「〇〇できる」という形式で記入します。ここで必ず書いていただきたいのは、DP又は共通教育スタンダード(以下「DP等」という。)との関連性です。それぞれの到達目標がDP等どのように関連しているのかについて明示してください。

その際、括弧書きで該当するDP等の項目を挙げてください(シラバス例を参照)。なお、DP等の項目は、コードとして挙げたものをすべて記載してください。

- 1.履修後には「こんなことができる」「こんな知識を身につけている」というイメージを抱きやすいような内容にしましょう。
- 2.「授業の目的」と「到達目標」とを対応させましょう。
- 3.ひとつの文にひとつの目標を書き、複数の「目標」を混ぜないようにしましょう。
- 4.「理解できる」等の概念的な表現ではなく、「(客観的に観察可能な行動)ができる」となるように設定しましょう。

1. 四国地域の「歴史と文化」についてのいくつかのトピックを詳しく説明できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)  
2. 地域の歴史と文化に関心を持ち、自己と関連づけて理解し、地域社会の将来について考えることができる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)

## ■ 成績評価の方法(必須)

何をもちて成績を評価するのかを記入します。成績評価の基準は、学生から採点根拠を尋ねられたら、答えられるようなものにし、可能であれば数値で示しましょう。

(小テスト25%, レポート25%, 期末テスト50%等)

当然ながら、成績評価の観点が学んだ内容と関係ないものにならないようにしてください。

ガイダンスを除く授業7回分(各6点満点)と期末レポート課題(1回:58点満点)の合計得点が60点以上を合格とする。ただし、小テストの未受験数が3回以上の場合、合計得点に関わらず「不可」の評定とする。

## ■ 成績評価の基準

固定表示文章です。(編集不可)

## ■ 授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス(必須)

「授業の目的・到達目標」を実現する授業方法と内容を考えて計画を立てます。

講義・演習の場合は、2単位科目では15回、1単位科目では8回(ただし、8回目は45分間以上)の授業を、また、実験・実習の場合は、15回の授業を必ず確保する必要があります。

この各回の授業について、どのような内容の講義を行うか、またはどのようなことを行うか明記します(シラバス作成ガイドラインの記載例を参照)。自学自習に関する指示もここに書きます。

授業で与えられる1単位は、授業に自学自習を合わせた学習に対して与えられるものですから、自学自習に関する適切な指示が必要です。

特に予習の指示は、学生が必要な準備学習を行うために、また教員がそれを前提とした授業を実施する環境を作るために重要です。

なお、授業計画に関しては、進捗状況との関係でやむを得ず変更が必要となる可能性があります。そのような場合は学生に確実に周知する必要があります。

#### 【授業計画】

- ① ガイダンス（授業概要、受講方法等について）
- ② 平安末阿波武士と仏教文化（大石 雅章/鳴門教育大学）
- ③ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(1)（田中健二/香川大学教育学部）
- ④ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(2)（田中健二/香川大学教育学部）
- ⑤ 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略(3)（田中健二/香川大学教育学部）
- ⑥ 中世の瀬戸内海水運(1)（田中健二/香川大学教育学部）
- ⑦ 中世の瀬戸内海水運(2)（田中健二/香川大学教育学部）
- ⑧ 阿波商人の活躍と江戸時代の経済（桑原恵/徳島大学総合科学部）
- ⑧ 期末レポート（オンライン）

#### 【自学自習について】

各回の授業内容について理解を深めるため、インターネットや書籍等で適宜情報収集に努めること。

#### 【授業時間外学習について】

e-Learningコンテンツの視聴確認も兼ねて、各回において知識定着度を判定するための小テストを課している。しっかり復習してから小テストを受験すること。

※自学自習（準備学習 16時間 + 事後学習 16時間）

#### 教科書・参考書等（必須）

教科書・参考書等を指定する場合、書名、著者名、出版社、出版年、価格等を記入します。

これらを購入させる場合は、使用方法を明確しておく必要があります。購入したが一度も使わなかったという事態は避けねなければなりません。

特に指定しない。

#### オフィスアワー（必須）

オフィスアワーとは、学生が事前の約束なしでも研究室を訪問できる時間帯のことですが、いつでも対応するというのは事実上不可能で、それではオフィスアワーになりません。

具体的に「○曜日○時限目」、「○曜日○時から○時」というように指定しましょう。

新入生など研究室に馴染みのない学生のために、研究室の場所も記載してあげると親切です。

特に設けない。電子メール（rekishi1-c@kagawa-u.ac.jp）を利用すること。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ（必須）

その他、履修上注意すべき事項について記載してください。

本授業はフルオンデマンドのe-Learning形態で実施するため講義室での対面授業は行わない。また、受講制限をかける場合がある。詳細は大学連携e-Learning教育支援センター四国ウェブサイト（URL: <https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>）にある「知プラe科目の履修案内」に記載されているので必ず熟読のこと。

#### 参照ホームページ

参照ホームページを記載して下さい。ただし、同欄はシラバス冊子には掲載されません。

シラバス冊子に掲載する場合には、「担当教員からのメッセージ」にURLを記載してください。

大学連携e-Learning教育支援センター四国（知プラ）ウェブサイト  
<https://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

■ ■ メールアドレス 学外非公開

連絡用のメールアドレスを記載して下さい。ただし、同欄はシラバス冊子には掲載されません。  
シラバス冊子に掲載する場合には、「担当教員からのメッセージ」にアドレスを記載して下さい。

rekishi1-c@kagawa-u.ac.jp

■ ■ 教員の実務経験との関連